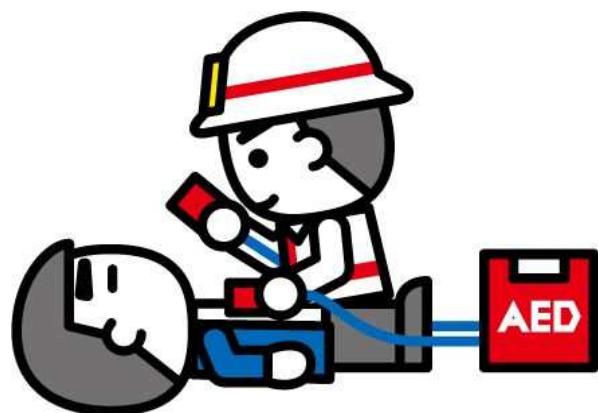


# III 救急・救助



余 白

# 第1 救急活動の概況

## 1 救急業務実施体制

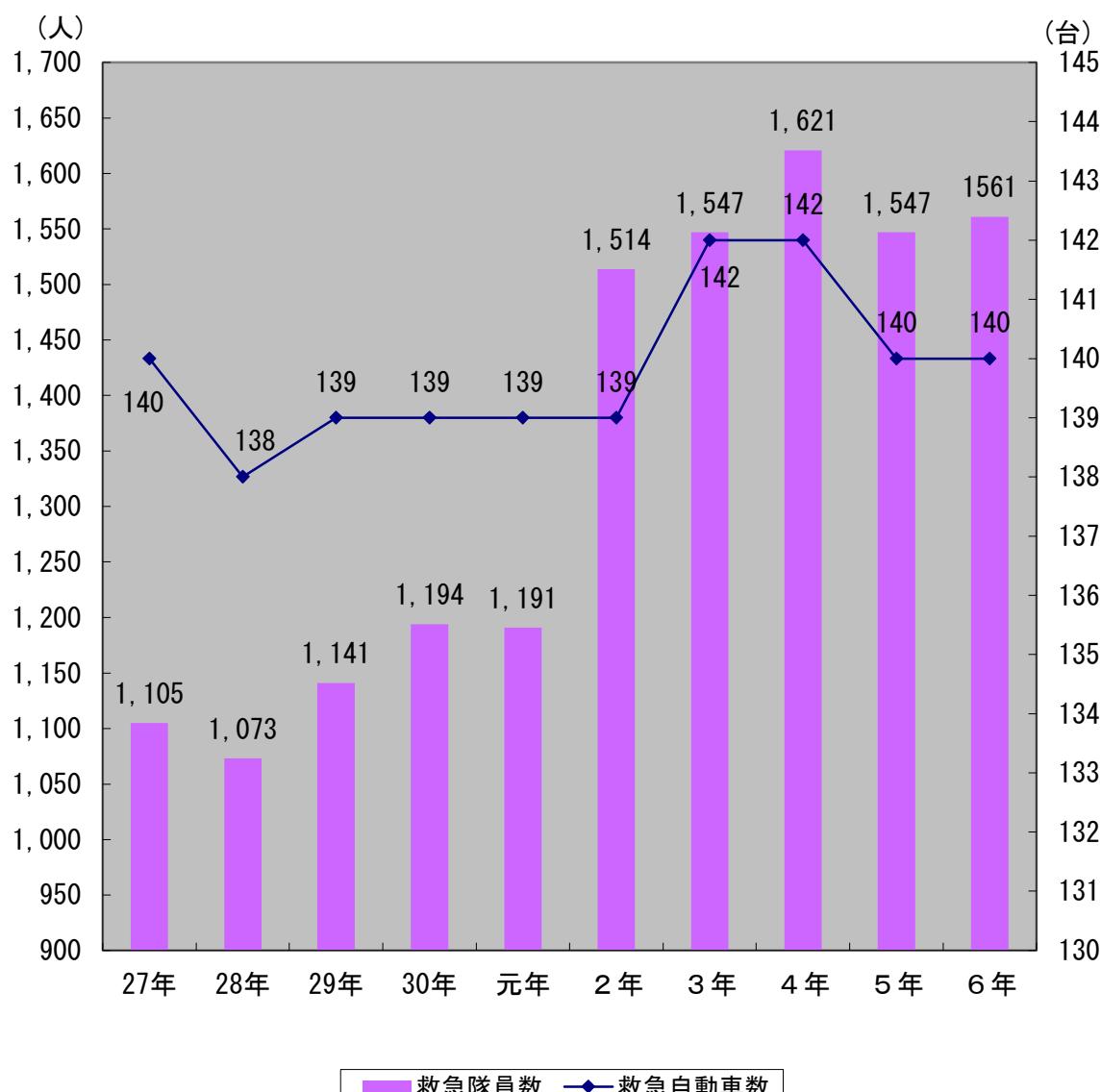
令和6年4月1日において救急業務を実施している市町村は41市町村で、県人口99.9%がカバーされている。

救急自動車の保有台数は140台、救急隊員1,561人（専任335人、兼任1,226人）で、前年に比べ救急隊員は14人増加している。また、救急告示医療機関は106機関、その他医療機関は1,287機関となっている。

平成3年8月にプレホスピタル・ケア充実の一環として、救急隊員の行う応急処置の範囲が拡大されるとともに、高度な応急処置を行うための新たな国家資格制度として救急救命士制度が導入され、救命率の向上を目指した救急業務の高度化が推進されている。

令和6年4月1日現在、県内全消防本部で救急救命士を運用（一部運用を含む）しており、資格者合計827名のうち698名が救急業務に従事している。

図1 過去10年間の救急自動車及び救急隊員数の推移 (各年4月1日現在)



## 2 救急業務実施状況

### (1) 概要

令和5年中における救急出動件数は99,484件、搬送人員は88,710人で、いずれも昨年を上回った。

昨年と比べると救急出動件数は5,145件(5.5%)の増加、搬送人員は4,722人(5.6%)の増加となっている。

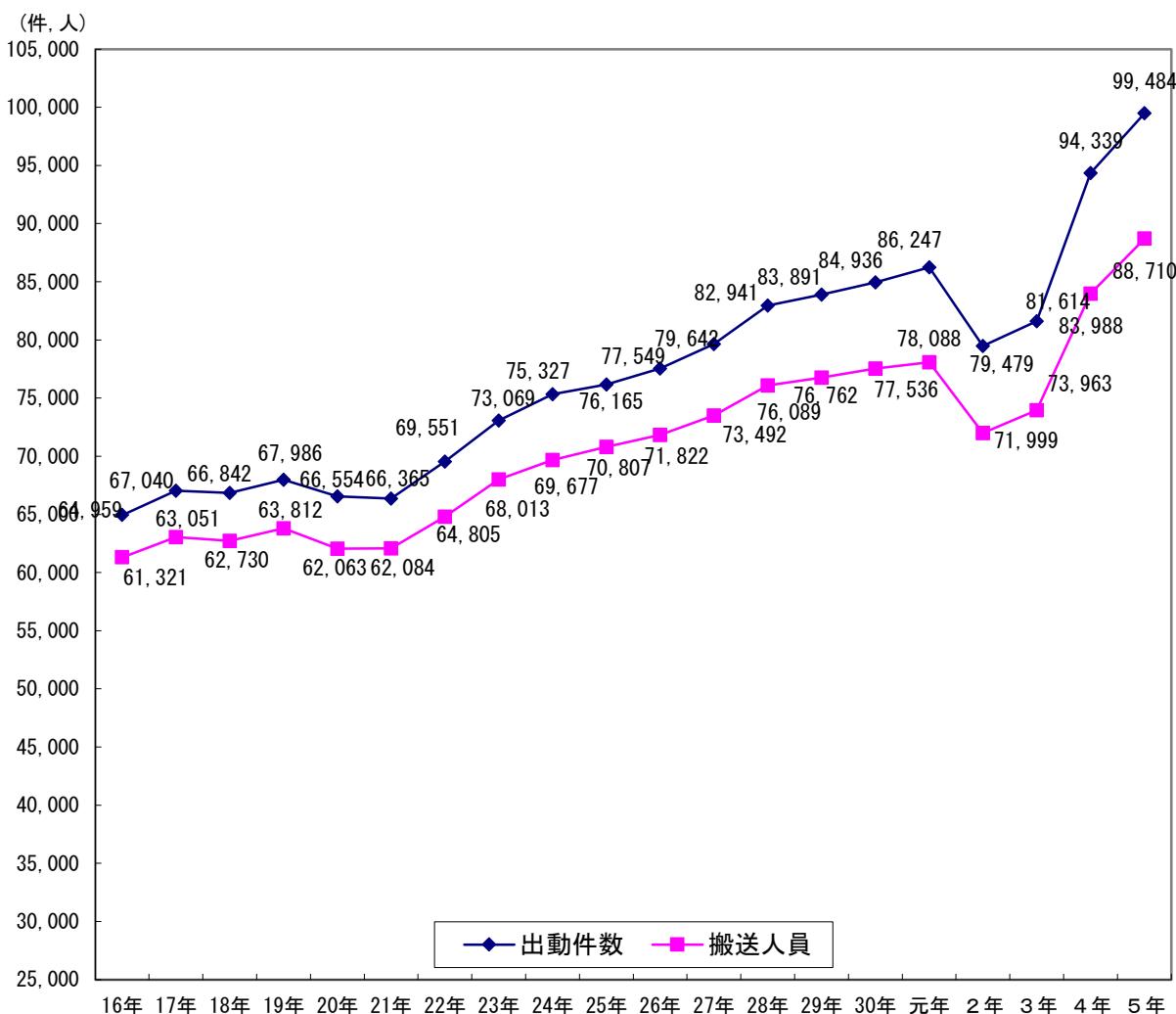
これは、1日平均272.6件(前年258.5件)、約5.3分に1回の割合で救急隊が出動し、また1日平均243.0人(前年230.1人)、約5.9分に1人の割合で搬送されていることとなる。

事故種別救急出動件数は、前年と同じく1位が急病で63,122件(全体の63.4%)、次いで、その他が16,847件(同16.9%)、一般負傷が14,356件(同14.4%)、となっている。

なお、搬送人員については、1位が急病で55,959人(全体の63.1%)、次いで、その他が15,025人(同16.9%)、一般負傷が13,156人(同14.8%)となり、上位3位まで全体の約94.8%を占めている。

過去20年間の県内救急活動の推移は下図のとおりであり、これまで増加の一途をたどっていた搬送人員・出動件数は、平成17年からほぼ横ばい、平成22年から再び増加に転じ、令和2年に大幅に減少したが令和3年から再び増加に転じた。

図2 過去20年間の救急出動件数、搬送人員の推移



(2) 事故種別、傷病程度別及び年齢区分別搬送人員の状況

表1 事故種別出動件数及び搬送人員の状況

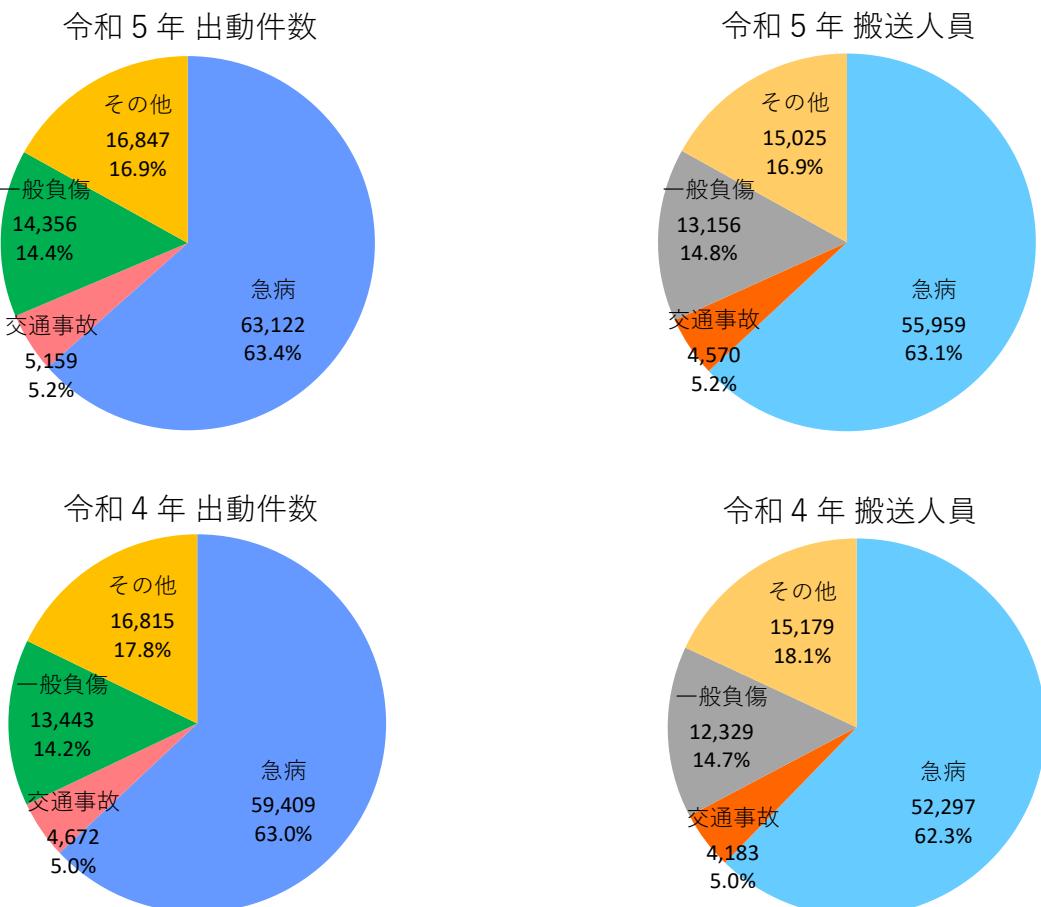
(単位：件、人、%)

区分		計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他	構成比
令和5年	出動件数	99,484	100.0	63,122	63.4	5,159	5.2	14,356	14.4	16,847	16.9
	搬送人員	88,710	100.0	55,959	63.1	4,570	5.2	13,156	14.8	15,025	16.9
令和4年	出動件数	94,339	100.0	59,409	60.7	4,672	5.6	13,443	14.4	16,815	17.8
	搬送人員	83,988	100.0	52,297	60.2	4,183	5.6	12,329	14.7	15,179	18.1
増減	出動件数	5,145	—	3,713	—	487	—	913	—	32	—
	搬送人員	4,722	—	3,662	—	387	—	827	—	△ 154	—

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

図3

(単位：件、人、%)



## ア 年齢別搬送人員

搬送人員の年齢別事故種別をみると、高齢者、成人、少年、乳幼児では、急病が半数を超える高い率を占めており、少年では他の年齢に比べ、交通事故が比較的高い比率を占めている。

表2 年齢別搬送人員の状況

(単位：人、%)

区分	計	構成比	急病	構成比	交通事故	構成比	一般負傷	構成比	その他		構成比
新生児	149	100.0	22	14.8	0	0.0	1	0.7	126	84.6	
乳幼児	3,106	100.0	2183	70.3	95	3.1	626	20.2	202	6.5	
少年	2,932	100.0	1,539	52.5	460	15.7	333	11.4	600	20.5	
成人	22,911	100.0	14,379	62.8	2,412	10.5	2,052	9.0	4,068	17.8	
高齢者	59,612	100.0	37,836	63.5	1,603	2.7	10,144	17.0	10,029	16.8	
合計	88,710	100.0	55,959	63.1	4,570	5.2	13,156	14.8	15,025	16.9	

(注) 新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

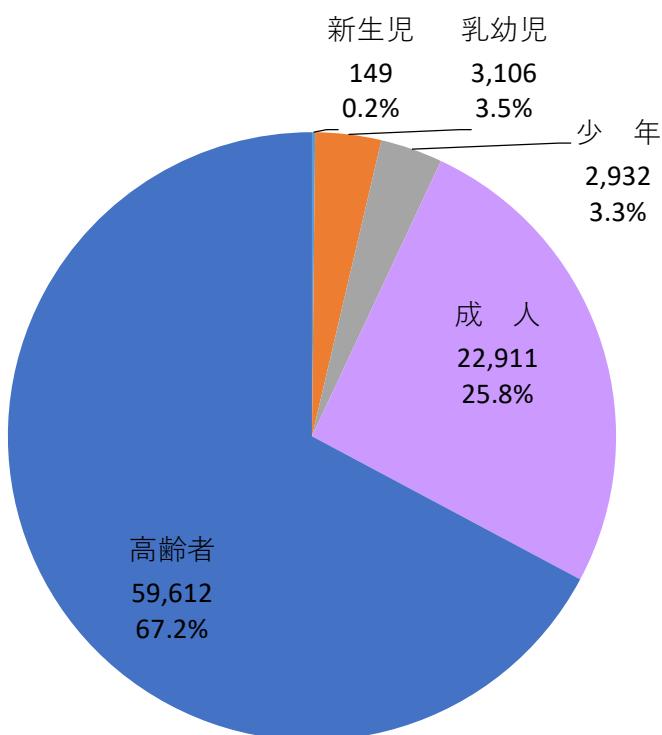
成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

(注) その他は、火災・自然災害・水難・労働災害・運動競技・加害・自損行為・その他（転院搬送・医師搬送・資機材等搬送・その他）を示す。

(注) 構成比：搬送理由/年齢区分別搬送人員

図4



## イ 傷病程度別搬送人員

令和5年中における搬送人員は88,710人であるが、これを傷病程度別にみると、軽症、中等症の両者で全体の91.1%を占めている。

表3 傷病程度別搬送人員の状況（事故種別）

(単位：人、%)

区分	合計	構成比	死亡	構成比	重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
火災	65	100.0	1	1.5	15	23.1	23	35.4	26	40.0		
自然災害	7	100.0					4	57.1	3	42.9		
水難	31	100.0	6	19.4	10	32.3	8	25.8	7	22.6		
交通事故	4,570	100.0	21	0.5	227	5.0	1,224	26.8	3,098	67.8		
労働災害	750	100.0	5	0.7	106	14.1	319	42.5	320	42.7		
運動競技	611	100.0			8	1.3	157	25.7	446	73.0		
一般負傷	13,156	100.0	70	0.5	1,146	8.7	6,071	46.1	5,869	44.6		
加害	203	100.0	1	0.5	2	1.0	41	20.2	159	78.3		
自損行為	542	100.0	30	5.5	72	13.3	259	47.8	181	33.4		
急病	55,959	100.0	679	1.2	3,796	6.8	28,727	51.3	22,750	40.7	7	0.0
その他	12,816	100.0	9	0.1	1,639	12.8	10,790	84.2	359	2.8	19	0.1
計	88,710	100.0	822	0.9	7,021	7.9	47,623	53.7	33,218	37.4	26	0.0

※ 死亡：初診時において、死亡が確認されたもの

重症：傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症：傷病の程度が入院を必要としないもの

その他：医師の診断がないもの及び「他の場所」へ搬送したもの

※ 構成比：傷病程度人数/区分合計

また、年齢別にみると、新生児、成人、高齢者の場合は中等症の割合が高いのに対し、乳幼児、少年の場合は、軽症の割合が高くなっている。

表4 傷病程度別搬送人員の状況（年齢別区分）

(単位：人、%)

区分	合計	構成比	死亡	構成比	重症	構成比	中等症	構成比	軽症	構成比	その他	構成比
新生児	149	100.0			22	14.8	113	75.8	11	7.4	3	2.01
乳幼児	3,106	100.0	5	0.2	37	1.2	808	26.0	2,256	72.6		
少年	2,932	100.0	1	0.0	58	2.0	769	26.2	2,104	71.8		
成人	22,911	100.0	122	0.5	1,287	5.6	9,502	41.5	11,994	52.4	6	0.03
高齢者	59,612	100.0	694	1.2	5,617	9.4	36,431	61.1	16,853	28.3	17	0.03
計	88,710	100.0	822	0.9	7,021	7.9	47,623	53.7	33,218	37.4	26	0.03

(3) 現場到着所要時間及び収容所要時間の状況

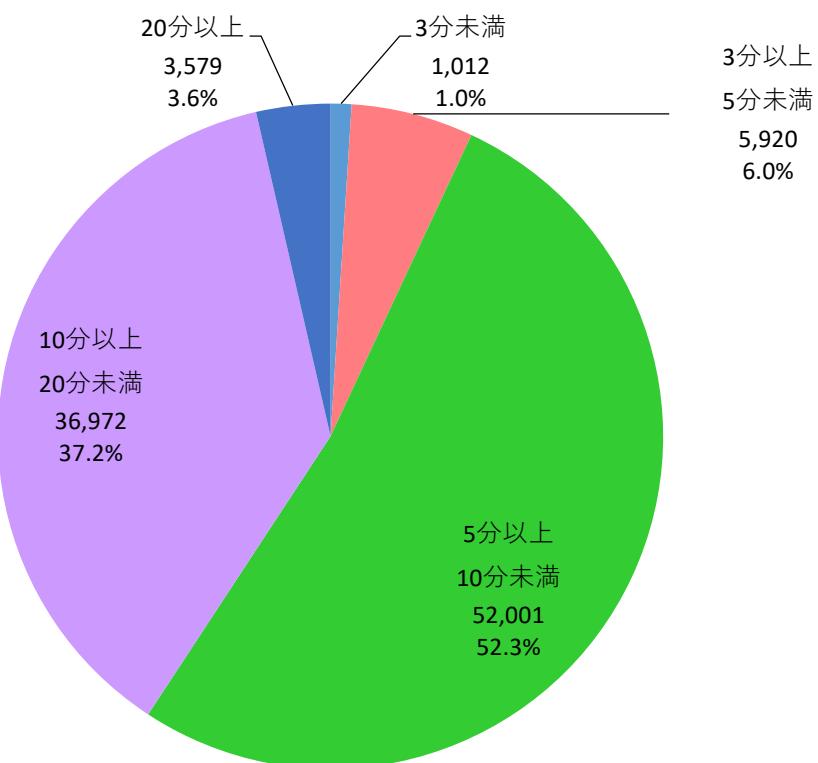
令和5年中の救急出動件数99,484件について現場到着所要時間別（救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると最も多いのは、5分以上～10分未満の52,001件で全体の52.3%を占めている。

表5 現場到着時間別出動件数

区分	計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	現場到着平均 所要時間	
							県	全国
急病	63,122	537	2,778	32,414	25,166	2,227	9.8分	—
交通事故	5,159	40	255	2,488	2,055	321	10.4分	—
一般負傷	14,356	126	699	7,399	5,537	595	9.8分	—
その他	16,847	309	2,188	9,700	4,214	436	8.2分	—
計	99,484	1,012	5,920	52,001	36,972	3,579	9.6分	10.0分
構成比	100.0%	1.0%	6.0%	52.3%	37.2%	3.6%	—	—

図5



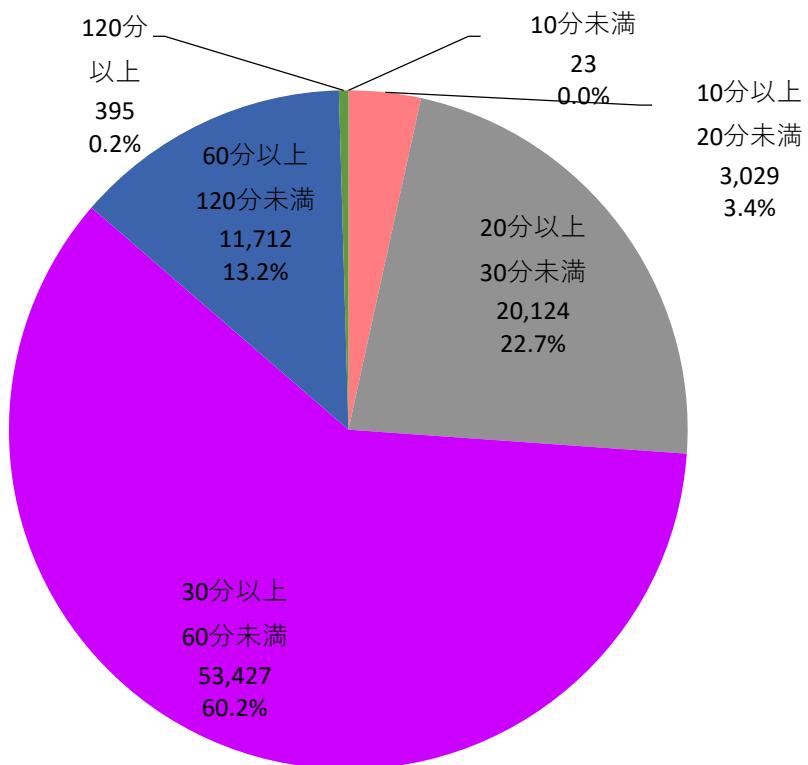
令和5年中の搬送人員88,710人について、収容所要時間別（救急事故の覚知から医療機関に収容するまでに要した時間別）の状況を示したものが下表である。

これによると搬送人員のうち65,534人（73.9%）が収容に30分以上要している。

表6 収容所要時間搬送人員

区分	計	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	収容平均 所要時間	
								県	全国
急病	55,959	10	1,285	12,278	35,354	6,803	229	41.5分	—
交通事故	4,570	2	53	798	2,919	774	24	44.8分	—
一般負傷	13,156		277	2,728	8,344	1,753	54	42.2分	—
その他	15,025	11	1,414	4,320	6,810	2,382	88	40.7分	—
計	88,710	23	3,029	20,124	53,427	11,712	395	41.6分	45.6分
構成比	100.0%	0.0%	3.4%	22.7%	60.2%	13.2%	0.4%	—	—

図6



(4) 事故種別転送回数別搬送人員の状況

搬送人員88,710人のうち99.6%は、転送なしで収容されており、  
転送回数1回の者が転送者全体の99.7%を占めている。

表7 転送回数別搬送人員の状況

区分	計	急病	交通事故	一般負傷	その他
転送なし	88,328	55,711	4,548	13,081	14,988
転送	1回	381	247	22	75
	2回	1	1		
	3回				
	4回				
	5回以上				
	小計 (A)	382	248	22	75
計 (B)	88,710	55,959	4,570	13,156	15,025
転送率 (A) / (B) × 100	0.4	0.4	0.5	0.6	0.2

転送理由についてみると、救急告示医療機関、非告示医療機関とともに処置困難が多く、次いで専門外の順になっている。

**表8 医療機関転送理由の状況**

(単位：件、%)

区分		合計	ベッド 満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	理由不明	その他
救 急 告 示	構成比	100.0	7.0	14.1	0.7		59.2		19.0
		142	10	20	1		84		27
非 告 示	構成比	100.0	4.2	15.3			69.3	0.5	10.7
		215	9	33			149	1	23
計	構成比	100.0	5.3	14.8	0.3		65.3	0.3	14.0
		357	19	53	1		233	1	50

(5) 救急隊員の行った応急処置の状況

令和5年中に転送された人員のうち、救急隊員によって応急処置された人の事故種別、処置項目状況をみると、急病においては、血中酸素飽和度の測定が最も多く、次いで血圧測定が多い。

また、交通事故、一般負傷においても、血中酸素飽和度の測定、血圧測定の順で処置が多くなっている。

表9 救急隊員の行った応急処置の状況

(単位:人)

処置項目	事故種別 応急処置対象 搬送人員	計	急病	交通事故	一般負傷	その他
		88,478	55,940	4,563	13,147	14,828
止 血		1,784	216	227	1,147	194
固 定		4,932	265	2,386	1,782	499
人 工 呼 吸		288	219	5	18	46
心 マ ツ サ 一 ジ		145	119	3	12	11
心 肺 蘇 生		1,580	1,274	38	154	114
酸 素 吸 入		15,554	10,555	324	724	3,951
気 道 確 保		2,141	1,733	44	189	175
(再掲) 気道確保のうち気管挿管		232	166	3	53	10
保 温		5,852	3,889	227	833	903
被 覆		3,932	210	813	2,514	395
在 宅 療 法 継 続		333	298		19	16
ショックパンツによる血圧保持						
除 細 動		163	143	6	6	8
薬 劑 投 与		487	396	11	52	28
血 圧 测 定		84,184	53,004	4,432	12,567	14,181
聴診器による心音・呼吸音等の聴取		26,228	19,166	1,759	2,606	2,697
血 中 酸 素 鮑 和 度 の 测 定		86,665	54,680	4,501	12,908	14,576
心 電 図		53,827	38,587	1,979	5,985	7,276
静 脈 路 確 保 ( CPA 前 )		224	160	19	21	24
静 脈 路 確 保 ( CPA 後 )		643	522	15	66	40
血 糖 测 定		1,648	1,567	13	47	21
ブ ド ウ 糖 投 与		120	117		1	2
そ の 他 の 応 急 処 置		67,983	43,154	3,552	10,052	11,225
計 (再掲の気管挿管を除く)		358,713	230,274	20,354	51,703	56,382

(注) 一人につき複数の応急処置を行うこともあるため、応急処置対象搬送人員と事故種別ごとの処置項目の計の数は一致しない。

## (6) 高速道路における救急業務の状況

高速自動車国道における救急業務実施体制は、令和6年4月1日現在、九州縦貫自動車道のうち鹿児島インターチェンジから宮崎インターチェンジ間、えびのインターチェンジから人吉インターチェンジ間を沿線3市1組合で、相互応援協定を締結し、上下線方式により、第1次出場をインターチェンジ所在の常備消防が担当する体制を整えている。

東九州自動車道31.7kmは沿線1市1組合が担当している。

県内においては、上り線が鹿児島インターチェンジから宮崎県えびのインターチェンジまでの69.8kmについて、第1次出場を担当し、救急業務を行っている。

### 高速自動車道における救急活動状況

表10 九州自動車道

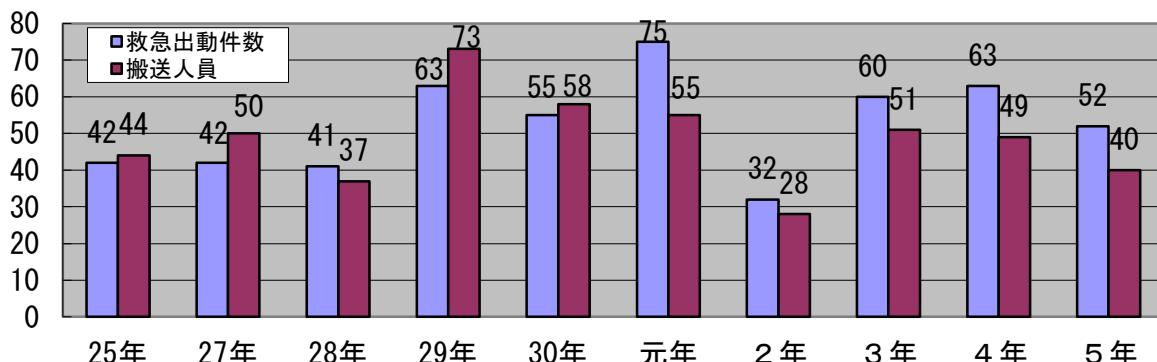
区分	インター チェンジ名 (IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
鹿児島市消防局	鹿児島			28	昭和63.3.29
	鹿児島北	6	4	12	昭和52.11.15
	薩摩吉田	5	4		昭和48.12.13
	姶良				昭和48.12.13
姶良市消防本部	姶良	5	4	1	昭和48.12.13
	加治木	5	4	3	昭和48.12.13
	桜島スマートIC	8	6		平成30.3.30
霧島市消防局	溝辺鹿児島空港	1	1	1	平成17.11.7
	溝辺パーキングエリア	2	2		平成17.11.7
	横川	1	1		平成17.11.7
伊佐湧水消防組合	栗野	4	3	3	昭和55.3.22
計	10 IC	37	29	48	

(注) 医療機関は、インターチェンジから半径5キロメートルの範囲にあるものである。

表11 東九州自動車道

区分	インター チェンジ名 (IC)	救急出動件数	搬送人員	救急告示 医療機関数	高速道路に おける救急活動 開始年月日
霧島市消防局	国分パーキング			5	平成12.3.4
	国分	4	3	4	平成14.3.2
	隼人東	1	3	4	平成12.3.4
	隼人西			1	平成12.3.4
大隅曾於地区消防組合	末吉財部	10	5		平成14.5.9
計	5 IC	15	11	14	

図7 最近10年間の高速自動車道における救急出動件数及び搬送人員



### 3 プレホスピタル・ケアの充実

プレホスピタル・ケア（救急現場及び搬送途上における応急処置）の一層の充実を図るために、平成3年8月に「救急隊員の行う応急処置等の基準」が改正され、これに伴い消防学校における新たな教育訓練（救急標準課程（平成16年4月1日より救急科に改称）及び救急II課程）の修了者は、従来の応急処置に加えて9項目の処置を行うものとされ、救急救命士資格者は、医師の指示の下にさらに高度な応急処置（特定3項目）を行ふものとされた。

これに伴い、消防学校における救急科（救急標準課程）の修了者が計画的に養成されるとともに、救急救命士についても県内全消防本部において運用され、資格者、高規格救急自動車のいずれも着実に増加している。

また、救急救命士の質の向上による救命効果を高めるため、平成15年2月に消防機関、救急医療機関、医師会などにより構成される鹿児島県救急業務高度化協議会を、同年3月に6地域（薩摩、北薩、姶良伊佐、大隅、熊毛、大島）に地域救急業務高度化協議会を設置し、平成15年4月から包括的除細動を実施し、平成16年7月から認められた医師の具体的指示下での気管挿管についても救急業務高度化協議会で承認された病院で、体制の整った消防本部から順次病院実習を実施し、532名が認定を受け20消防本部で実施が可能となっている。

平成18年4月から認められた医師の具体的指示下での薬剤投与について773名が認定・登録を受け、平成26年4月には「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」の実施が追加され、730名が認定・登録を受け、20消防本部で実施が可能となっている。

さらに、救急現場近くの一般市民による応急手当を促進するため、令和5年12月末までに応急手当指導員3,221名、応急手当普及員935名が県内消防本部により養成され、住民に対する応急手当講習会が次のとおり実施されている。

なお、平成16年12月に応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱の一部改正により、非医療従事者による自動体外式除細動器（AED）の使用が可能となったことから、AEDの内容を含めた救命講習の実施率が高くなっている。

#### 令和5年中の住民に対する応急手当講習会実施状況

普通救命講習	878回	15,683名受講
上級救命講習	43回	374名受講
救命入門コース	385回	9,582名受講
その他の講習	1,073回	24,596名受講
計	2,379回	50,235名受講

表12 救急業務高度化の推進状況

区分	令和6年	令和5年	対前年比較	
			増減数	増減率
救急救命士運用消防本部数	20	20		1.00
救急隊員数①	1,561	1,547	14	1.01
うち救急救命士有資格者② (②／①:%)	698 (44.7%)	683 (44.1%)	15	1.02
(②)のうち気管挿管認定者	437	415	22	1.05
(②)のうち薬剤投与認定者	655	636	19	1.03
(②)のうち処置拡大認定者	646	629	17	1.03
うち救急科（救急標準課程） (③／①:%)	827 (53.0%)	817 (52.8%)	10	1.01
救急自動車数④	140	140		1.00
うち高規格車⑤ (⑤／④:%)	138 (98.6%)	136 (97.1%)	2	1.01
救急隊数⑥	118	118		1.00
うち救急救命士運用隊⑦ (⑦／⑥:%)	117 (99.2%)	117 (99.2%)		1.00

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は659名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が39名、救急自動車に搭乗しない資格者が132名で、有資格者は計830名いる。

表13 救急業務実施体制等の状況（消防本部設置市町村）

区分 消防本部別	人口 (人) R2年 国調	面積 (km <sup>2</sup> )	救急体制											
			救急車総数 (台)		救急隊数	救急 救命士運 用隊 數 ※2	救急隊員数 (人)				専任	兼任		
			うち 高規格	うち 予備車			うち資格者・修了者							
鹿児島市消防局	593,128	547.61	23	23	5	18	18	244	91	148	2	3	94	150
枕崎市消防本部	20,033	74.78	3	3		2	2	31	12	19				31
出水市消防本部	51,994	329.98	3	3		4	3	54	23	31			16	38
垂水市消防本部	13,554	162.12	3	3		2	2	37	16	21				37
薩摩川内市消防局	92,403	682.92	8	8	1	7	7	73	33	39		1	23	50
日置市消防本部	47,153	253.01	4	4	1	3	3	44	19	25			18	26
霧島市消防局	123,135	603.17	8	8		8	8	125	53	71		1	52	73
いちき串木野市消防本部	27,490	112.3	3	3	1	2	2	19	9	10				19
南さつま市消防本部	32,887	283.59	5	5		5	5	70	25	44		1	25	45
姶良市消防本部	76,348	231.25	5	5	1	4	4	65	34	31			45	20
さつま町消防本部	22,400	303.9	3	3		3	3	32	15	16		1		32
指宿南九州消防組合	72,091	506.72	8	8		8	8	113	49	61		3		113
阿久根地区消防組合	28,975	250.5	6	6	2	4	4	63	30	26		7		63
伊佐湧水消防組合	33,591	536.85	6	6	1	5	5	84	37	42		5		84
大隅曾於地区消防組合	78,257	781.03	9	9	2	7	7	80	45	35			28	52
大隅肝属地区消防組合	134,985	1160.79	12	12	2	10	10	114	48	66			28	86
沖永良部与論地区広域事務組合	18,182	114.27	4	4	2	2	2	34	21	12		1		34
徳之島地区消防組合	23,497	248.03	4	4	1	6	6	50	27	23				50
熊毛地区消防組合	39,550	993.03	10	9	4	6	6	89	42	39		8		89
大島地区消防組合	65,367	87795	13	12	1	12	12	140	69	68		3	6	134
計	1,595,020	95,970.85	140	138	24	118	117	1,561	※1 698	827	2	34	335	1,226

※1 救急隊員として専任又は兼任の辞令を受けている救急救命士資格者数は659名、専任及び兼任の者が休日等の時、代替として救急業務に従事する資格者が39名、救急自動車に搭乗しない資格者が132名で、有資格者は計830名いる。

※2 救急救命士運用隊数は、一部運用も含む。

[現場到着平均所要時間及び収容平均所要時間は令和5年中、左記以外は令和6年4月1日現在]

合計	医療機関数										人口10 万人当たりの 救急医療機関 数	現場到着 平均所要時 間(分)	収容平 均所要 時間(分)			
	救急告示医療機関					その他の医療機関										
	国 公 立	公 的	私 的		計	国 公 立	公 的	私 的		計						
			病 院	診療所				病 院	診療所							
637	3	3	27	4	37	13	4	52	531	600	6.2	9.1	35.1			
18	1		3		4			4	10	14	20.0	5.0	38.8			
39	1				1	2		4	32	38	1.9	9.2	38.8			
7	1				1					6	6	7.4	8.8	50.6		
79		1	6		7	5		5	62	72	7.6	9.4	43.3			
39			2		2			7	30	37	4.2	9.3	46.3			
90	1		6		7			7	76	83	5.7	9.9	45.4			
27								6	21	27		7.8	42.9			
32	2		1		3	3		4	22	29	9.1	10.1	49.8			
66			4		4	3		5	54	62	5.2	8.9	41.0			
17			1		1			3	13	16	4.5	9.8	57.0			
62	1		3	1	5			11	46	57	6.9	10.7	46.8			
19			2		2	4		1	12	17	6.9	9.8	45.3			
26	1		2		3			4	19	23	8.9	10.1	50.4			
39			1	2	3			6	30	36	3.8	10.4	55.0			
106	2		6	1	9	12		9	76	97	6.7	10.8	47.1			
8			2		2				6	6	11.0	9.1	33.8			
8			2	1	3			1	4	5	12.8	10.9	45.4			
19	1		2		3	4		1	11	16	7.6	9.3	43.1			
76	1		4		5	11	1	4	55	71	7.6	10.5	40.6			
1,414	15	4	74	9	102	57	5	134	1,116	1,312	6.4	9.5	41.6			

表14 消防本部救急出動件数及び搬送人員

区分	事故種別救急出動件										
	計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病
消防本部名											
鹿児島市消防局	38,546	98	3	10	1,899	212	162	5,350	132	362	25,876
枕崎市消防本部	1,199				46	14	3	166	2	6	698
出水市消防本部	2,492	1		1	177	31	14	360	3	18	1,647
垂水市消防本部	1,113			4	58	11	2	166	3	5	716
薩摩川内市消防局	4,961	15		1	246	31	51	675	5	33	2,890
日置市消防本部	2,693	2	1	2	138	21	49	356	4	14	1,551
霧島市消防本部	7,828	15		7	502	44	39	1,114	16	79	4,786
いちき串木野市消防本部	1,453	2		1	68	19	18	236		11	816
南さつま市消防本部	1,983	2		2	114	17	17	314	2	11	1,168
姶良市消防本部	4,553	2	1	3	233	30	29	699	11	24	2,879
さつま町消防本部	1,198	3			75	23	7	185	1	7	669
指宿南九州消防組合	4,628	1		3	259	45	39	693	4	33	2,392
阿久根地区消防組合	1,978	1		5	84	17	15	307	1	16	1,185
伊佐湧水消防組合	2,159	2			97	20	6	334	4	16	1,269
大隅曾於地区消防組合	4,627	12		3	292	83	36	666	11	42	2,906
大隅肝属地区消防組合	7,983	13		4	481	103	75	1,079	22	65	5,160
沖永良部与論地区広域事務組合	955			4	41	9	8	144		5	627
徳之島地区消防組合	1,749	3			47	7	17	253	6	7	1,162
熊毛地区消防組合	2,492	2		2	91	35	12	410	6	12	1,638
大島地区消防組合	4,894	3	5	26	211	32	32	849	25	44	3,087
計	99,484	177	10	78	5,159	804	631	14,356	258	810	63,122
時間別	0~2	4,115	6		1	91	8	509	44	43	3,112
	2~4	3,250	6			62	7	379	24	38	2,509
	4~6	3,314	7		4	86	13	1	394	20	32
	6~8	6,291	4		8	448	26	3	990	14	60
	8~10	12,184	13		10	718	137	40	2,042	10	76
	10~12	13,371	20	2	4	679	201	170	1,824	12	82
	12~14	12,284	29		15	610	103	144	1,650	10	64
	14~16	11,029	29	1	16	652	147	126	1,605	16	75
	16~18	10,923	24	5	12	836	109	72	1,672	13	90
	18~20	9,580	20	2	3	587	29	44	1,426	28	109
	20~22	7,653	10		2	262	17	27	1,062	25	83
	22~24	5,490	9		3	128	7	4	803	42	58

[令和5年中]

数				事故種別搬送人員												
その他の				計	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	
転院搬送	医師搬送	資輸機材等送	その他													
3,699			743	33,456	21	3	4	1,639	183	156	4,874	102	259	22,530	3,685	
257	3		4	1,135				44	13	3	163	2	2	651	257	
226	4		10	2,170	1		1	145	31	11	319	3	11	1,423	225	
145	1		2	1,081			3	64	11	2	163	3	1	690	144	
960	4		50	4,342	4			216	29	47	607	3	21	2,493	922	
555				2,518	1	1		133	20	48	330	3	9	1,423	550	
1,164	9		53	7,168	5		3	443	46	40	1,023	11	60	4,379	1,158	
282				1,349	2		1	67	19	17	221		9	731	282	
321	3		12	1,866	1		2	99	17	16	300	2	9	1,097	323	
638			4	4,157	2	1		211	30	29	651	10	18	2,567	638	
226	1		1	1,100	2			70	23	7	170	1	4	598	225	
1,148	6		5	4,304	1			240	43	38	653	3	14	2,172	1,140	
342			5	1,883			2	83	16	16	291	1	11	1,124	339	
409			2	2,058	2			99	20	6	324	4	8	1,189	406	
569			7	4,231	8		1	234	82	36	613	9	24	2,659	565	
973			8	7,164	7		1	433	98	75	994	17	42	4,528	969	
98			19	905			4	45	9	8	137		3	603	96	
134			113	1,642	3			49	7	17	254	6	7	1,164	135	
241	20		23	2,275	2		1	86	30	12	382	6	9	1,507	240	
529	4		47	3,906	3	2	8	170	23	27	687	17	21	2,431	517	
12,916	55		1,108	88,710	65	7	31	4,570	750	611	13,156	203	542	55,959	12,816	
228			73	3,518	1			81	8		443	34	31	2,695	225	
152			73	2,833	1				53	7		336	17	32	2,238	149
120			50	2,927	5		2	72	12	1	358	12	24	2,325	116	
164			82	5,628			4	392	26	3	918	10	37	4,080	158	
1,599	11		77	11,160	5		4	654	125	38	1,938	8	49	6,754	1,585	
2,793	17		108	12,161	9	1	3	602	185	165	1,721	8	55	6,632	2,780	
2,615	13		106	11,052	11		8	531	100	139	1,513	7	40	6,108	2,595	
1,901	9		111	9,948	8	1	4	585	138	125	1,495	14	46	5,645	1,887	
1,673	5		125	9,720	11	3	3	758	100	66	1,531	13	55	5,515	1,665	
801			112	8,396	8	2	2	495	28	43	1,294	25	72	5,632	795	
528			96	6,598	2			238	15	27	906	23	57	4,806	524	
342			95	4,769	4		1	109	6	4	703	32	44	3,529	337	

表15 曜日別月別救急出動件数

(令和5年中)

区分 事故種別 (件)	火災	自然 災害	水難	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	その 他				計	
											転院 搬送	医師 搬送	資機 材等 輸送	その他		
曜 日 別	月	41	1	11	755	151	41	2,024	31	143	9,587	2,230	7		144	15,166
	火	23	7	11	797	135	58	1,947	39	109	8,984	2,004	6		155	14,275
	水	16	1	17	779	115	64	2,041	36	113	8,823	2,023	4		154	14,186
	木	36		5	782	116	69	1,895	34	111	8,629	1,812	14		149	13,652
	金	19	1	11	725	130	66	1,982	25	110	8,769	2,161	13		150	14,162
	土	19		12	685	105	140	2,156	43	116	8,942	1,679	6		172	14,075
	日	23		11	636	52	193	2,311	50	108	9,388	1,007	5		184	13,968
計		177	10	78	5,159	804	631	14,356	258	810	63,122	12,916	55		1,108	99,484
月 別	1月	25		4	465	56	18	1384	25	62	6,239	1,176	5		100	9,559
	2月	16			336	40	26	1049	16	64	4,418	1,042	2		87	7,096
	3月	15		6	411	45	51	1152	26	71	4,822	1,074	5		82	7,760
	4月	15		4	430	52	37	1114	13	81	4,405	1,005	4		75	7,235
	5月	17		4	405	64	55	1086	34	51	4,693	1057	4		98	7,568
	6月	6		9	399	71	63	1045	19	82	4,729	1088	4		113	7,628
	7月	13	1	21	468	76	68	1159	32	74	6,374	1086	9		90	9,471
	8月	17	9	7	473	116	85	1199	13	69	6,302	1114	4		117	9,525
	9月	9		6	408	81	87	1151	16	84	5,347	1018	2		92	8,301
	10月	12		7	444	73	70	1312	21	69	4,880	1110	8		91	8,097
	11月	16		8	425	64	29	1246	15	57	4,965	1005	5		71	7,906
	12月	16		2	495	66	42	1459	28	46	5,948	1,141	3		92	9,338

#### 4 応急手当指導員等養成講習の状況

表16

【指導員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当該年中修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	4	4					1
	応急手当指導員講習Ⅱ	10	10					10
	応急手当指導員講習Ⅲ	2			2			1
	消防長認定者	18	15	2	1			
	応急手当指導員講習Ⅰ 免除者	6	3	3			15	
	計	40	32	5	3		15	12
前年中までの修了者	応急手当指導員講習Ⅰ	502	377	58	64	3	28	97
	応急手当指導員講習Ⅱ	1,645	623	9	1,013		1	499
	応急手当指導員講習Ⅲ	8	1		7		4	2
	消防長認定者	695	627	41	2	23	2	21
	応急手当指導員講習Ⅰ 免除者	331	322	9			21	
	計	3,181	1,950	117	1,086	26	2	598
合計		3,221	1,982	122	1,089	26	2	610

表17

【普及員】

区分	講習修了者数						登録を抹消した者	講習回数
	計	消防職員	消防職員の退職者	消防団員	救命士等の医療従事者	その他		
当該年中修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	62			8	2	52	46
	応急手当普及員講習Ⅱ							
	消防長認定者							
	応急手当普及員講習Ⅱ 免除者							
	計	62			8	2	52	46
								7
前年中までの修了者	応急手当普及員講習Ⅰ	817	1		63	17	736	34
	応急手当普及員講習Ⅱ	29		1	20		8	1
	消防長認定者	27				2	25	
	応急手当普及員講習Ⅱ 免除者							
	計	873	1	1	83	19	769	34
								73
合計		935	1	1	91	21	821	80
								80

## 第2 救助活動の概況

### 1 救助業務実施体制

令和6年4月1日現在、救助隊は33隊配置されており、そのうち4隊が特別救助隊で、1隊が高度救助隊である。

また、444人の救助隊員のうち39.4%にあたる175人が専任救助隊員である。

**表18 救助体制**

(単位：隊、人)

区分	救助隊数			救助隊員数			
	省令	専任救助隊	兼任救助隊	計	専任救助隊員	兼任救助隊員	計
消防本部							
鹿児島市消防局	3	3		3	42		42
	4	2		2	28		28
	5	1		1	14		14
枕崎市消防本部	3		1	1		10	10
	4						
	5						
出水市消防本部	3	1		1	8		8
	4						
	5						
垂水市消防本部	3		1	1		8	8
	4						
	5						
薩摩川内市消防局	3	1		1	10		10
	4	1		1	10		10
	5						
日置市消防本部	3		1	1		16	16
	4						
	5						
霧島市消防局	3		2	2	2	13	15
	4						
	5						
いちき串木野市消防本部	3		1	1		5	5
	4						
	5						
南さつま市消防本部	3	1		1		13	13
	4						
	5						
姶良市消防本部	3	1		1	9		9
	4						
	5						
さつま町消防本部	3		1	1		13	13
	4						
	5						
指宿南九州消防組合	3		2	2		20	20
	4						
	5						
阿久根地区消防組合	3		1	1		30	30
	4						
	5						
伊佐湧水消防組合	3		2	2		31	31
	4						
	5						
大隅曾於地区消防組合	3	2		2	20		20
	4						
	5						
大隅肝属地区消防組合	3	1	2	3	10	36	46
	4	1			10		10
	5						
沖永良部与論地区広域事務組合	3		1	1		23	23
	4						
	5						
徳之島地区消防組合	3		1	1		31	31
	4						
	5						
熊毛地区消防組合	3		1	1		20	20
	4						
	5						
大島地区消防組合	3	1		1	12		12
	4						
	5						
県 計	3	11	17	28	113	269	382
	4	4		4	48		48
	5	1		1	14		14

※ 省令3は省令第3条の規定による救助隊、省令4は省令4条の規定による救助隊（特別救助隊）、  
省令5は省令第5条の規定による救助隊（高度救助隊）

表19 救助隊が搭乗する車両

区分	救 工 作 車	助 手 はしご 車	屈 はしご 車	折 はしご 車	ポンプ車	水槽付 ポンプ車	化 学 車	その 他	計
消防本部									
鹿児島市消防局	3								3
枕崎市消防本部	1			1					2
出水市消防本部	1	1							2
垂水市消防本部								1	1
薩摩川内市消防局	1								1
日置市消防本部	1								1
霧島市消防局	1	2				1			4
いちき串木野市消防本部	1	1							2
南さつま市消防本部	1	1						1	3
姶良市消防本部	1								1
さつま町消防本部	1								1
指宿南九州消防組合	2	1							3
阿久根地区消防組合	1							1	2
伊佐湧水消防組合	2								2
大隅曾於地区消防組合	2	1			2	2		2	9
大隅肝属地区消防組合	2	1							3
沖永良部与論地区広域事務組合	1								1
徳之島地区消防組合	1								1
熊毛地区消防組合	1								1
大島地区消防組合	1	1							2
県 計	25	9	1		2	3		5	45

## 2 救助業務実施状況

令和5年中における救助業務の実施状況は、救助出動件数798件、救助活動件数476件、救助人員532人となっている。（表22）

これを前年と比較すると出動件数は69件（9.5%）の増加、活動件数は5件（1.1%）の増加、救助人員は9人（1.7%）の増加となっている。

図8 過去20年間の救助業務実施状況の推移

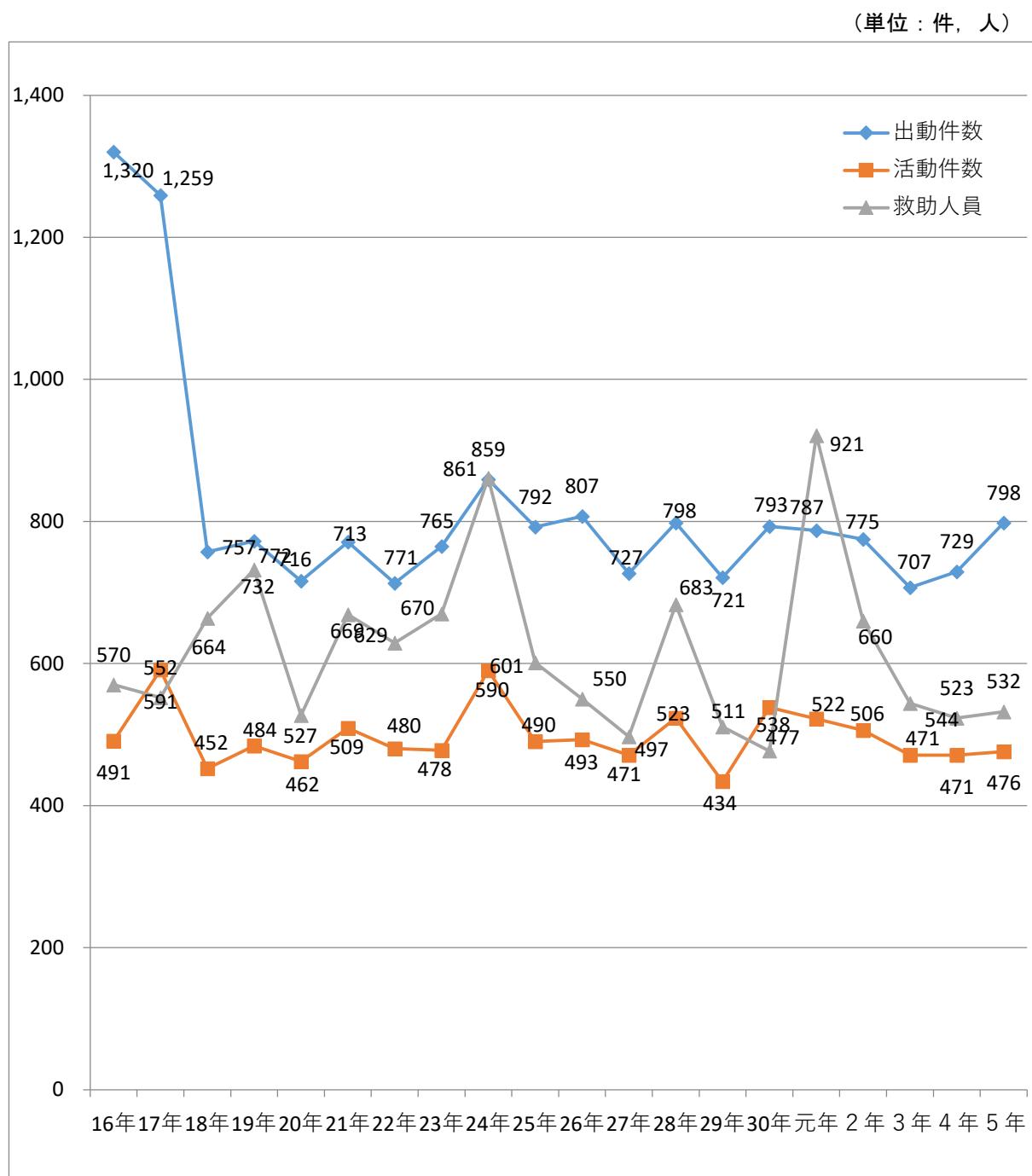


表20 事故種別出動件数及び出動人員の状況（令和5年）

(単位：件、人)

事故種別	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自風 然水 災害	事機 械に よ る 故 る	よ建 る物 事等	酸ガ 欠ス 事及 故び	破 裂 事 故	事そ の 他 故の	計
消防本部										
鹿児島市消防局	1	62	10	1	2	20	6		34	136
枕崎市消防本部		5			2	6			3	16
出水市消防本部		13	2						6	21
垂水市消防本部		4	2			1			2	9
薩摩川内市消防局		18	2			2			4	26
日置市消防本部		29	1	1					5	36
霧島市消防局	3	40	5		4	13	3		32	100
いちき串木野市消防本部		7	4			1			4	16
南さつま市消防本部	1	8	3			4			3	19
姶良市消防本部		22	3						5	30
さつま町消防本部		7							3	10
指宿南九州消防組合	2	23	3		3	17			27	75
阿久根地区消防組合		11	2		1				2	16
伊佐湧水消防組合		20			2				9	31
大隅曾於地区消防組合		40	3	1	6				17	67
大隅肝属地区消防組合	4	28	8		4	7			17	68
沖永良部与論地区広域事務組合		5	5		3				4	17
徳之島地区消防組合		2							2	4
熊毛地区消防組合	1	10	2		1				12	26
大島地区消防組合	1	33	14			4			23	75
救助出動件数 計	13	387	69	3	28	75	9		214	798
救助出動人員	専任救助隊員	26	884	145	6	32	160	36		418 1,707
	兼任救助隊員	28	549	107	5	47	74	7		303 1,120
	消防隊員	107	1,287	350	14	76	184	39		725 2,782
	救急隊員	49	1,674	235	3	82	212	36		656 2,947
	消防団員	112	14	8						117 251
	計	322	4,408	845	28	237	630	118		2,219 8,807

表21 事故種別活動件数及び活動人員の状況（令和5年）

(単位：件、人)

事故種別	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自風 然水 災害 等	事機 械 に よ る 故 る	よ建 る物 事等 故に	酸ガ 欠ス 事及 故び	破 裂 事 故	事そ の 他 故の	計	
消防本部											
鹿児島市消防局	1	45	10	1	1	14			28	100	
枕崎市消防本部			1		1	5			3	10	
出水市消防本部		10	2						5	17	
垂水市消防本部		4	2			1			2	9	
薩摩川内市消防局		10	2			2			3	17	
日置市消防本部		16		1					4	21	
霧島市消防局	3	15	3		1	7	1		14	44	
いちき串木野市消防本部		5	3			1			2	11	
南さつま市消防本部	1	7	2			4			2	16	
姶良市消防本部		20	3						4	27	
さつま町消防本部		3							3	6	
指宿南九州消防組合	2	15	1		2	13			24	57	
阿久根地区消防組合		5	1		1				1	8	
伊佐湧水消防組合		8							7	15	
大隅曾於地区消防組合		14	3		3				13	33	
大隅肝属地区消防組合	4	13	4		2	5			16	44	
沖永良部与論地区広域事務組合		2	3		2				3	10	
徳之島地区消防組合		2							2	4	
熊毛地区消防組合	1	7	1						8	17	
大島地区消防組合	1	4	2						3	10	
救助活動件数 計	13	206	42	2	13	52	1		147	476	
救助活動人員	専任救助隊員	12	372	94	4	16	52	1		236	787
	兼任救助隊員	21	243	69	2	19	44	2		211	611
	消防隊員	56	622	192	12	36	103	5		430	1,456
	救急隊員	30	747	113	3	35	131	9		429	1,497
	消防団員	62		6						116	184
	計	181	1,984	474	21	106	330	17		1,422	4,535

(注) 「救助活動件数」とは、救助出動件数のうち、実際に救助活動を行った件数をいう。

表22 事故種別救助人員の状況（令和5年）

(単位：人)

事故種別	火災	交通事故	水難事故	自風災害等	事機械による事故	よ建物事等	酸欠事故及び	破裂事故	その他の事故	計
消防本部	災	故	害等	故	る	事に	故び	事故	の事故	
鹿児島市消防局	1	70	8	2	1	11			32	125
枕崎市消防本部		1			1	5			3	10
出水市消防本部		11	1						5	17
垂水市消防本部		6	2			1			2	11
薩摩川内市消防局		10	2			2			3	17
日置市消防本部		24		1					4	29
霧島市消防局	3	16	4		1	7	2		14	47
いちき串木野市消防本部		5	4			2			2	13
南さつま市消防本部		7	1			4			2	14
姶良市消防本部		28	3						4	35
さつま町消防本部		4							3	7
指宿南九州消防組合		15	1		2	13			21	52
阿久根地区消防組合		5	1		1				1	8
伊佐湧水消防組合		10							8	18
大隅曾於地区消防組合		14	3		3				14	34
大隅肝属地区消防組合		15	4		2	5			16	42
沖永良部与論地区広域事務組合		2	4		2				3	11
徳之島地区消防組合		2							2	4
熊毛地区消防組合	1	10	1						14	26
大島地区消防組合	1	6	2						3	12
救助人員 計	6	261	41	3	13	50	2		156	532

表23 救助活動のための機械器具等の保有状況（救助隊保有分）

一般用救助用器具	かぎ付きはしご	38	隊員保護用器具	耐電手袋	131
	三連はしご	28		耐電衣	59
	金属折りたたみはしご又はワイヤはしご	15		耐電ズボン	57
	空気式救助マット	12		耐電長靴	91
	救命索発射銃	29		防塵メガネ	82
	サバイバースリング又は救助用縛帶	88		携帯警報器	81
	平担架	14		防毒マスク	85
	油圧ジャッキ	34		化学防護服（陽圧式化学防護服を除く）	101
	油圧スプレッダー	14		陽圧式化学防護服	60
	可搬ワインチ	33		耐熱服	15
重量物排除用器具	マンホール救助器具	27		放射線防護服	24
	救助用簡易起重機	4		特殊ヘルメット	
	マット型空気ジャッキ	30	器除染具用	除染シャワー（歩行可能者用）	3
	大型油圧スプレッダー	28		除染シャワー（歩行可能者・担架用）	2
	救助用支柱器具	23		除染剤散布器	3
	チェーンブロック	10		除染シャワー（多人数対応用）	
	油圧切断機	17	水難救助用器具	潜水器具	58
	エンジンカッター	31		救命胴衣	245
	ガス溶断機	19		水中投光器	31
	チェンソー	44		救命浮環	31
切断用器具	鉄線カッター	52		浮標	11
	空気鋸	30		救命ボート	22
	大型油圧切断機	28		船外機	14
	空気切断機	17		水中スクーター	14
	コンクリート・鉄筋切断用チェンソー	8		水中無線機	6
	万能斧	79		水中時計	6
	ハンマー	41		水中テレビカメラ	
	携帯用コンクリート破壊器具	22	用山岳救助器具	登山器具	7
	削岩機	20		バスケット型担架	46
	ハンマドリル	21		簡易画像探索機	8
測定用器具	生物剤検知器	3	高度救助用器具	画像探索機	9
	可燃性ガス測定器	28		地中音響探知機	1
	有毒ガス測定器	33		熱画像直視装置	20
	酸素濃度測定器	17		夜間暗視装置	2
	放射線測定器	60		電磁波探査装置	
	化学剤検知器	8		二酸化炭素探査装置	
	空気呼吸器	196		水中探査装置	
	空気補充用ポンベ	269		地震警報器	1
	酸素呼吸器	34		その他救助用器具	
	簡易呼吸器	12	その他救助用器具	投光器	51
呼吸保護用器具	防塵マスク	109		携帯投光器	46
	送排風機	31		携帯拡声器	55
	エアラインマスク	5		携帯無線機	63
				応急処置用セット	23
				車両移動器具	17

### 第3 自衛隊災害派遣による離島急患搬送

離島における医療体制の実情により、現地では治療困難な患者で、一刻も早く専門病院での手当が必要である者に対して、昭和36年から自衛隊に対し、災害派遣要請（航空機搬送）を実施している。

#### 搬送機関・活動範囲

海上自衛隊第1航空群 鹿屋航空分遣隊（鹿屋市）

十島村以北

陸上自衛隊第15旅団 第15ヘリコプター隊（沖縄県那覇市）

奄美大島以南

#### 1 自衛隊災害派遣（離島急患搬送）の状況

令和5年中における急患搬送件数は77件である。（図9）

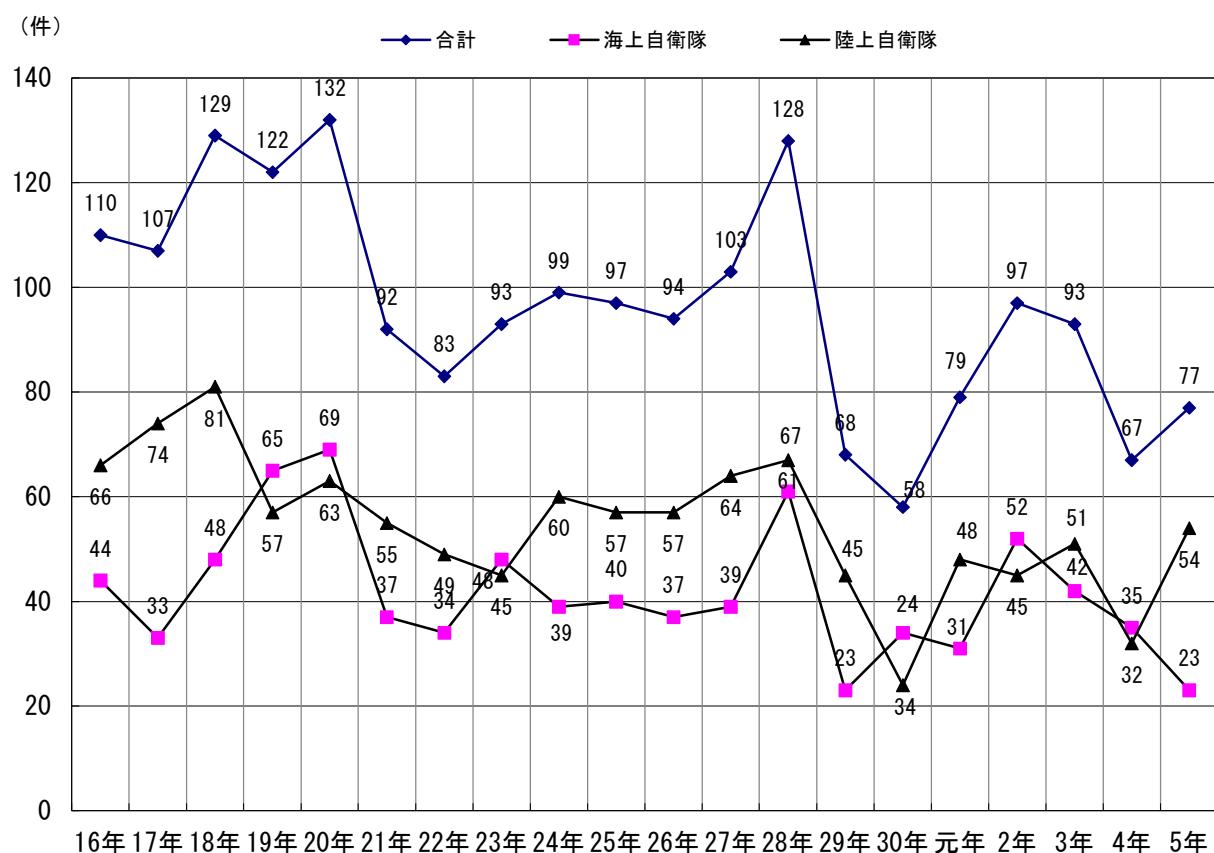
出動件数77件を郡別にみると、大島郡（奄美市を含む）が59件（全体の76.6%）で、次に熊毛郡（西之表市を含む）が9件（同11.7%）、鹿児島郡が5件（同6.5%）となっている。（図10及び表24）

また、月別では、12月の11件が最も多く、時間帯別（派遣要請時間）では18時から20時までが21件で最も多くなっている。（表25）

令和5年中の搬送人員を傷病別にみると、内臓疾患によるものが40人（全体の51.9%）で最も多く、次にその他が16人（同20.8%）となっている。

（表26及び表27）

図9 過去20年間の災害派遣（急患搬送）出動件数



（注）「海上自衛隊」には、教育航空集団を、「陸上自衛隊」には南西航空混成団をそれぞれ含んでいる。

図10 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）の出動件数（その1）

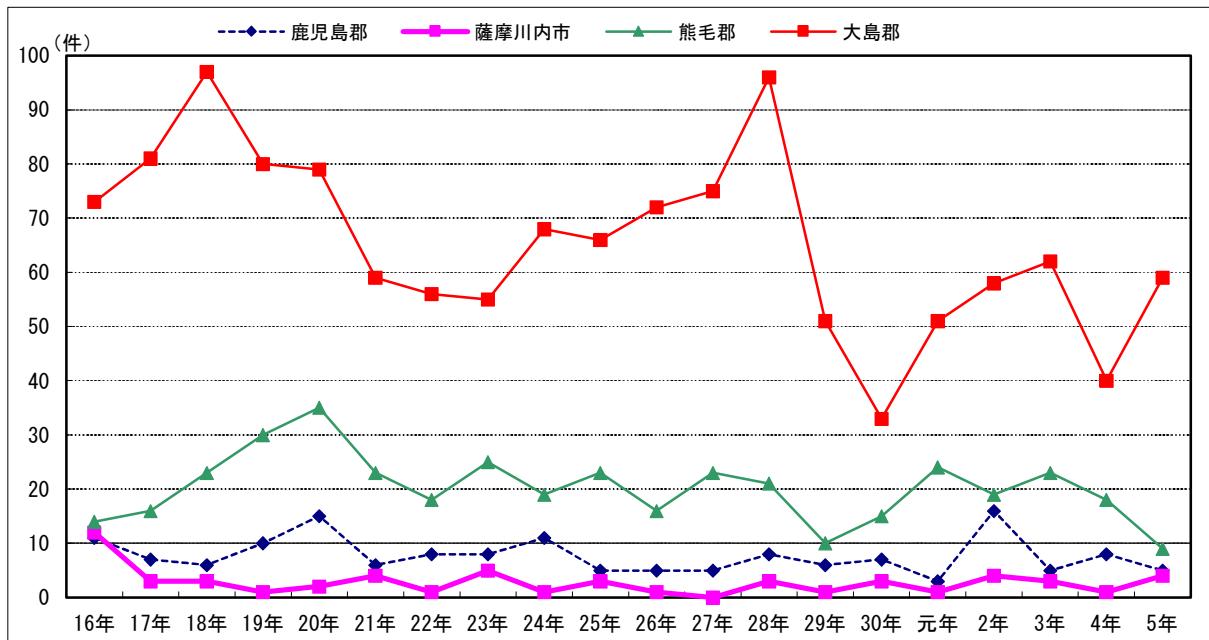


表24 過去20年間の市・郡別災害派遣（急患搬送）出動件数（その2） (年中)

年	計	鹿児島郡	薩摩川内市	熊毛郡	大島郡	計のうち不搬送件数
平成 16	110 (66)	12	3	23	72 (66)	
17	110 (74)	11	12	14	73 (74)	
18	107 (81)	7	3	16	81 (81)	
19	129 (56)	6	3	23	97 (56)	鹿屋1件
20	121 (64)	10 (1)	1	30	80 (63)	鹿屋2件, 沖縄2件
21	131 (55)	15	2	35	79 (55)	鹿屋1件
22	92 (49)	6	4	23	59 (49)	
23	83 (44)	8	1	18	56 (44)	鹿屋1件, 沖縄2件
24	93 (61)	8 (1)	5	25	55 (60)	鹿屋1件, 沖縄1件
25	99 (57)	11	1	19	68 (57)	沖縄1件
26	97 (57)	5	3	23	66 (57)	沖縄1件
27	94 (64)	5	1	16	72 (64)	沖縄1件
28	103 (67)	5	0	23	75 (67)	
29	128 (45)	8	3	21	96 (45)	沖縄1件
30	68 (24)	6	1	10	51 (24)	
元	58 (48)	7	3	15	33 (48)	
2	79 (55)	3	1	24	51 (55)	
3	97 (51)	16	4	19	58 (51)	
4	67 (32)	8	1	18	40 (32)	
5	77 (54)	5	4	9	59 (54)	
計	1,943 (1,104)	162 (2)	56	404	1,321 (1,102)	沖縄分構成比
構成比率	100.0%	8.3%	2.9%	20.8%	68.0%	(56.8%)

(注) 1 ( ) 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。

2 便宜上、熊毛郡には西之表市、大島郡には奄美市をそれぞれ含めている。

3 平成20年及び24年の鹿児島郡には、各年1件ずつ、離島外からの搬送を含む。

余 白

表25 過去20年間の月別及び時間帯別災害派遣（離島急患搬送）出動件数

区分		年別	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
月別	1	10 (6)	9 (5)	11 (5)	8 (4)	21 (11)	12 (5)	7 (4)	11 (3)	3 (2)	14 (6)	
	2	15 (10)	8 (8)	11 (8)	8 (3)	9 (4)	8 (8)	9 (7)	4 (4)	13 (8)	1 (1)	
	3	10 (4)	10 (7)	9 (7)	16 (10)	15 (6)	4 (4)	3 (2)	9 (4)	5 (3)	9 (6)	
	4	9 (5)	10 (7)	11 (7)	9 (6)	9 (3)	6 (4)	7 (3)	5 (1)	11 (5)	7 (3)	
	5	7 (6)	11 (7)	7 (6)	4 (1)	9 (6)	9 (5)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	5 (4)	
	6	4 (3)	8 (6)	11 (5)	10 (4)	5 (3)	7 (6)	6 (4)	8 (1)	8 (4)	8 (4)	
	7	7 (4)	7 (6)	11 (7)	2 (2)	7 (4)	6 (5)	5 (3)	7 (6)	9 (6)	15 (7)	
	8	4 (2)	5 (5)	13 (7)	11 (6)	10 (5)	10 (5)	6 (4)	6 (2)	9 (7)	2 (1)	
	9	15 (11)	8 (5)	8 (4)	7 (3)	4 (2)	8 (3)	5 (4)	9 (5)	7 (5)	6 (5)	
	10	10 (7)	13 (10)	6 (5)	21 (8)	12 (4)	9 (5)	11 (1)	10 (7)	9 (4)	10 (7)	
	11	11 (6)	8 (4)	17 (9)	13 (4)	18 (8)	6 (1)	10 (4)	12 (4)	11 (8)	12 (8)	
	12	8 (2)	10 (4)	14 (11)	13 (6)	13 (7)	7 (4)	9 (9)	7 (4)	9 (4)	8 (5)	
計		110 (66)	107 (74)	129 (81)	122 (57)	132 (63)	92 (55)	83 (49)	93 (45)	99 (60)	97 (57)	
時間別	0~2	6 (3)	3 (3)	6 (3)	2 (1)	6 (1)	9 (3)	7 (6)	5	8 (5)	5 (4)	
	2~4	2 (1)	4 (2)	3 (2)	2 (1)	4 (2)	2 (1)	3	5 (2)	4 (2)	6 (3)	
	4~6	5 (4)	4 (2)	5 (3)	5 (2)	3 (2)	3 (1)	1 (1)	1	5 (2)	2 (1)	
	6~8	6 (3)	10 (8)	5 (3)	7 (4)	3	2 (1)	1	1 (1)	5 (5)	3 (3)	
	8~10	13 (9)	7 (5)	11 (5)	13 (4)	13 (4)	4 (2)	9 (6)	9 (4)	5 (5)	3 (3)	
	10~12	21 (15)	14 (9)	21 (14)	19 (11)	12 (6)	13 (11)	9 (4)	10 (8)	9 (6)	10 (9)	
	12~14	11 (6)	11 (10)	19 (13)	11 (7)	15 (11)	11 (7)	12 (6)	6 (2)	5 (2)	14 (9)	
	14~16	12 (10)	8 (5)	5 (3)	10 (5)	18 (10)	9 (7)	11 (8)	5 (2)	7 (5)	5 (3)	
	16~18	9 (3)	14 (9)	18 (15)	10 (3)	11 (8)	11 (5)	7 (5)	11 (8)	13 (8)	14 (8)	
	18~20	11 (7)	9 (6)	13 (7)	21 (5)	11 (4)	10 (5)	5 (2)	14 (3)	15 (9)	16 (6)	
	20~22	9 (3)	14 (8)	11 (8)	13 (8)	13 (5)	7 (5)	10 (6)	20 (12)	11 (6)	10 (4)	
	22~24	5 (2)	9 (7)	12 (5)	9 (6)	23 (10)	11 (7)	8 (5)	6 (3)	12 (5)	9 (4)	

(注) 1 ( ) 内は沖縄自衛隊出動件数の内書きである。  
2 「時間帯」は、自衛隊への派遣要請時間である。

(年中)

26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	計
6 (3)	6 (4)	17 (10)	6 (5)	5 (3)	4 (1)	5 (1)	12 (9)	7 (4)	8 (4)	187 (97)
2 (1)	10 (6)	5 (3)	2 (2)	7 (2)	7 (4)	6 (3)	7 (5)	6 (1)	9 (4)	151 (96)
10 (6)	9 (8)	11 (7)	3 (2)	4 (2)	7 (5)	7 (3)	6 (3)	6 (2)	6 (6)	172 (102)
10 (8)	6 (3)	9 (3)	6 (5)	3 (1)	3 (3)	3 ()	6 (3)	6 (4)	5 (4)	149 (83)
5 (2)	4 (4)	8 (4)	4 (1)	5 (1)	6 (5)	4 (2)	6 (2)	9 (4)	9 (7)	138 (88)
8 (5)	3 (2)	11 (5)	2 (1)	2	7 (6)	8 (4)	3 ()	6 (3)	3 (2)	140 (73)
7 (5)	16 (11)	15 (10)	6 (2)	5 (4)	6 (4)	11 (6)	5 (3)	8 (5)	3 (2)	167 (107)
8 (7)	9 (4)	15 (5)	10 (7)	5 (2)	7 (6)	6 (4)	9 (6)	2 (2)	5 (4)	157 (94)
6 (2)	10 (4)	10 (8)	6 (4)	5 (4)	5 (2)	8 (2)	10 (5)	3 (2)	4 (4)	152 (91)
12 (8)	11 (6)	6 (5)	8 (7)	5 (2)	9 (5)	7 (4)	6 (1)	4 (2)	7 (6)	199 (109)
9 (5)	11 (6)	11 (2)	8 (5)	7 (1)	9 (4)	10 (5)	12 (9)	5 (2)	7 (5)	218 (107)
11 (5)	8 (6)	10 (5)	7 (4)	5 (2)	9 (3)	22 (11)	11 (5)	5 (1)	11 (6)	208 (112)
94 (57)	103 (64)	128 (67)	68 (45)	58 (24)	79 (48)	97 (45)	93 (51)	67 (32)	77 (54)	2038 (1159)
8 (5)	7 (6)	11 (5)	7 (4)	3 (1)	8 (4)	9 (3)	6 (2)	7 (3)	6 (5)	139 (73)
4 (1)	7 (2)	7 (6)		4 (2)	6 (2)	5 (2)	6 (5)		7 (6)	83 (43)
3 (2)		8 (3)	3 (1)	3	0 ()	5 (3)	4 (3)	3 (1)	2 (2)	67 (33)
5 (4)	2 (2)	5 (3)		2	0 ()	3 (2)	2 (2)	4	2 (1)	71 (44)
9 (6)	5 (4)	10 (6)	1 (1)	0	2 (2)	0 ()	3 (2)	1 (1)	2 (2)	139 (87)
6 (3)	12 (8)	16 (7)	1	0	2 (2)	3 (3)	4 (1)	3 (2)	3 (3)	209 (134)
10 (8)	10 (6)	11 (8)	1 (1)	3 (1)	2 ()	10 (5)	10 (4)	1 (1)	7 (3)	189 (117)
6 (5)	9 (2)	8 (4)	2 (2)	1 (1)	2 (2)	11 (7)	5 (5)	4 (1)	1 (1)	145 (94)
10 (3)	17 (11)	12 (7)	9 (6)	2 (1)	15 (8)	5 (2)	9 (4)	9 (3)	8 (5)	226 (128)
13 (9)	17 (12)	25 (11)	11 (9)	19 (10)	13 (9)	16 (6)	19 (10)	13 (4)	21 (11)	297 (146)
9 (6)	11 (8)	7 (2)	23 (15)	13 (6)	17 (8)	20 (5)	16 (8)	12 (9)	11 (10)	271 (147)
11 (5)	6 (3)	8 (5)	10 (6)	8 (2)	12 (11)	10 (7)	9 (5)	10 (7)	7 (5)	202 (113)

表26 令和5年中の市町村別搬送人員傷病別内訳

市町村別	傷病別	合 計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・婦人科	小児科	内臓疾患	その他
			頭部	その他	頭部	その他						
鹿児島郡	三島村											
	十島村	5	1				1	1	1			1
薩摩川内市		4									1	3
熊毛郡 (西之表市含)	西之表市	1									1	
	中種子町	1									1	
	南種子町	2				1					1	
	屋久島町	5				1			1		2	1
大島郡 (奄美市含)	奄美市	10 (6)						1	1		7 (6)	1
	龍郷町											
	大和村											
	宇検村											
	瀬戸内町	1							1			
	喜界町	8 (8)					1 (1)				4 (4)	3 (3)
	徳之島町	5 (5)	1 (1)								3 (3)	1 (1)
	天城町	2 (2)								1 (1)	1 (1)	
	伊仙町	4 (4)		1 (1)			1 (1)	1 (1)			1 (1)	
	和泊町	8 (8)		1 (1)			2 (2)				2 (2)	3 (3)
	知名町	8 (8)									8 (8)	
	与論町	13 (13)					2 (2)				8 (8)	3 (3)
計		77 (54)	2 (1)	2 (2)		2	7 (6)	3 (1)	4	1 (1)	40 (33)	16 (10)

(注1) ( ) 内は、沖縄自衛隊搬送人員の内書きである。

(注2) 不搬送の傷病者は含まない。

表27 過去20年間の離島急患搬送人員及び傷病別内訳

(年中)

傷病別 年別	計	交通事故		労働災害		脳疾患	頭部損傷 (一般負傷)	産科・ 婦人科	小児科	内臓疾患	その他
		頭部	その他	頭部	その他						
16	111 (66)	1 (1)	1 (1)		1	23 (11)	2 (1)	13 (8)	20 (16)	47 (28)	3
17	103 (71)		1			21 (16)	4 (2)	21 (15)	5 (5)	46 (30)	5 (3)
18	126 (79)		4 (4)	1 (1)	2 (1)	24 (9)		29 (20)	11 (7)	51 (35)	4 (2)
19	117 (55)		1 (1)		4 (2)	19 (11)		21 (11)	15 (7)	47 (20)	10 (3)
20	131 (64)	1	1		3 (1)	29 (17)	2 (1)	23 (9)	18 (11)	45 (21)	9 (4)
21	93 (56)	1 (1)	2	2 (1)	1	19 (11)		16 (10)	10 (6)	37 (25)	5 (2)
22	83 (49)	2 (1)	1 (1)			17 (9)	4 (3)	14 (7)	2 (2)	30 (18)	13 (8)
23	94 (46)		1			21 (9)	1 (1)	22 (6)		36 (23)	13 (7)
24	101 (61)	1	5 (2)			18 (10)	2 (1)	13 (5)	5 (5)	46 (32)	11 (6)
25	96 (56)	1 (1)	1		3 (2)	12 (4)		21 (13)	1 (1)	38 (25)	19 (10)
26	93 (56)	2 (1)	6 (4)		3 (3)	7 (3)		17 (10)	6 (4)	39 (21)	13 (10)
27	104 (65)	4 (3)	4 (1)	3 (1)	3	13 (10)	4 (2)	13 (8)	1	49 (33)	10 (7)
28	128 (67)	2	1 (1)		2	24 (17)	3 (1)	17 (9)	4 (2)	48 (22)	27 (15)
29	68 (45)		3 (3)			17 (11)	1 (1)	2 (1)	9 (7)	26 (17)	10 (5)
30	58 (24)			1 (1)	1	6 (4)		7 (2)	2 (1)	30 (14)	11 (2)
元	79 (48)				3 (3)	21 (9)	2 (2)	5 (4)	3 (2)	40 (24)	5 (4)
2	104 (55)	1	2 (1)	1		13 (9)	2	4 (1)	4 (4)	48 (27)	29 (13)
3	93 (51)		3 (2)	1 (1)		5 (3)	1 (1)	3 (1)	6 (5)	59 (30)	15 (8)
4	67 (32)		1 (1)		1	8 (5)		6 (2)	1 (1)	39 (19)	11 (4)
5	77 (54)	2 (1)	2 (2)		2	7 (6)	3 (1)	4	1 (1)	40 (33)	16 (10)

(注) ・本表は、鹿屋の海上自衛隊第1航空群及び沖縄の陸上自衛隊第15旅団（内書き）が搬送した人員である。  
 ・不搬送の傷病者は含まない。

## 第4 消防・防災ヘリコプターの活動

### 1 消防・防災ヘリコプターの導入

県では、大規模災害時における広範な消防防災活動を行うほか、救助・救急・捜索等の緊急運航など幅広く活用するとともに、災害時の被害状況をより的確かつ迅速に把握するため、消防・防災ヘリコプター「さつま」を導入して、平成10年4月1日、運航拠点となる枕崎ヘリポートに防災航空センターを設置して鹿児島県防災航空隊を発足させた。

現在、防災航空隊員は、鹿児島市、枕崎市、南さつま市及び指宿南九州の4消防本部から派遣された隊員7名（令和2年4月に1名増員）で編成しており、令和元年5月11日からは、経年劣化による不具合の発生を防止し、より広域的、安定的な運航を図る目的で新しい機種に変更して運航を行っているところである。

### 2 消防・防災ヘリコプターの活動内容

消防・防災ヘリコプターは以下の活動を行うこととしている。

#### (1) 災害応急対策活動

- ア 被災状況等の調査及び情報収集活動
- イ 食糧、衣料その他の生活必需品及び復旧資材等の救援物資及び人員等の搬送
- ウ 災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動
- エ その他、災害応急対策活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (2) 救急活動

- ア 山村及び離島等からの救急患者の搬送
- イ 傷病者発生地への医師搬送及び医療機材等の搬送
- ウ 高度医療機関のない地域からの傷病者の施設間搬送
- エ 消防・防災ヘリの積極的活用としての本土内搬送
- オ その他、救急活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (3) 火災防ぎよ活動

- ア 林野火災等における空中からの消火活動
- イ 被害状況調査及び情報収集活動
- ウ 消防隊員及び消防資機材等の搬送
- エ その他、火災防ぎよ活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (4) 救助活動

- ア 河川及び海等での水難事故並びに、山岳遭難事故等における捜索又は救助
- イ 高層建築物火災における救助
- ウ 山崩れ等の災害により、陸上から接近できない被災者等の救出
- エ 高速道路及び自動車専用道路での事故救助
- オ その他、救助活動上、特に、航空機による活動が有効と認められる場合

#### (5) 広域航空消防防災応援活動等

- ア 県が締結している他県との相互応援協定等による相互応援

#### (6) 災害予防活動

- （7）自隊訓練のための活動
- （8）各種防災訓練等への参加等
- （9）その他知事が必要と認める活動

表28 消防・防災ヘリコプター「さつま」の諸元・性能

型 式	～令和元年5月11日(旧機体)	令和元年5月11日～(新機体)
定 員	13名（増槽タンク非装着時15名）	14名（前席2名+客席12名）
最 大 全 装 備 重 量	5,398kg	7,000kg
空 虚 重 量	3,820kg	4,579kg
有 効 搭 載 量	1,578kg	2,421kg
航 続 距 離	720km	1,250km
最 大 巡 航 速 度	259km/h	310km/h
限 界 高 度	6,096m	6,096m
全 長	17.1m	16.62m
全 幅	2.9m	4.22m
全 高	4.6m	4.98m
消 火 用 水 積 載 量	1,400ℓ	1,800ℓ

### 3 消防・防災ヘリコプターの運航状況（レオナルドAW139型）

令和5年中における運航件数は183件となった。

過去10年間の推移は下図のとおりであり、救急活動、山岳や海上での捜索、救助活動などの緊急運航や各種防災訓練を行った。

図11 過去10年間の活動状況

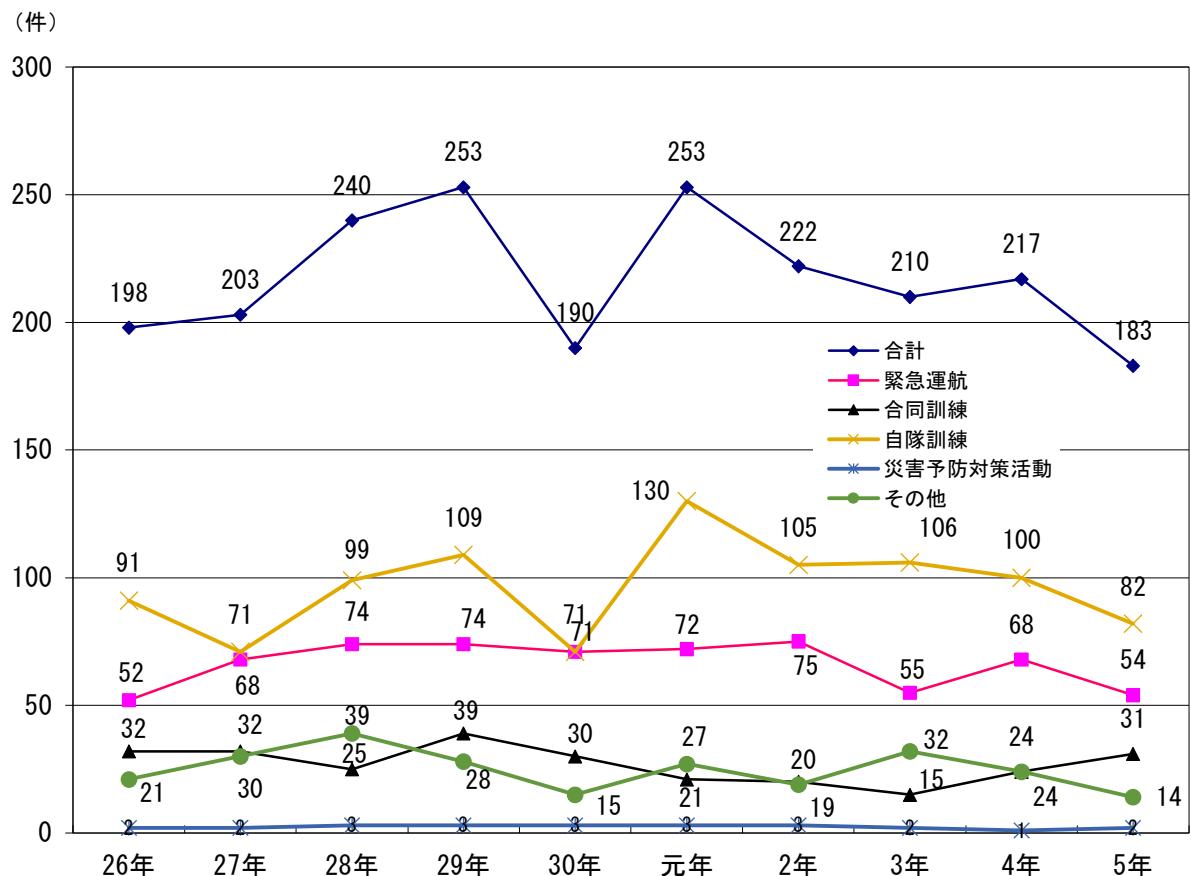


表29 消防・防災ヘリコプターの運航状況

(令和5年)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合 計	総 計	
緊急運航	災害応急対策活動	件数													54件 59時間30分	
		時間														
	救急活動	件数			3	2	3		4	4	4	3	4		27	
		時間			1:55	1:25	1:55		4:15	2:35	8:05	3:25	4:15		27:50	
	火災防御活動	件数														
		時間														
	救助活動	件数			2	2	2		6	2	3	2	4		23	
		時間			1:50	1:00	2:10		13:30	2:00	1:35	1:50	2:20		26:15	
	広域応援	件数			1				1		2				4	
		時間			0:50				2:30		2:05				5:25	
災害予防活動	件数				1									1	2	2件 5時間25分
	時間				3:10									2:15	5:25	
合同訓練	他県広域関係	件数		1										1	2	31件 35時間45分
		時間		2:05										2:50		4:55
	県市町村関係	件数		4		1	2		1	2	6	5	8		29	
		時間		4:50		0:40	2:35		1:00	1:20	6:15	4:40	9:30		30:50	
	合同訓練事前訓練	件数														
		時間														
自隊訓練	件数		7	16	11	7		9	5	9	10	8		82	82件	82件 91時間00分
	時間		7:20	21:40	11:15	7:05		9:35	5:30	10:55	9:55	7:45		91:00	91時間00分	
その他	件数		3					1	3	2	1	4		14	14件	14件 21時間35分
	時間		1:00					0:30	2:45	8:40	0:20	8:20		21:35	21時間35分	
合 計	件数		15	23	16	14		22	16	26	21	30		183	183件	183件 213時間15分
	時間		15:15	29:25	14:20	13:45		31:20	14:10	37:35	20:10	37:15		213:15	213時間15分	

表30 消防・防災ヘリコプターの活動状況（R5年中）

(1) 災害応急対策活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
				0件	

(2) 救急活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	搬送人員	時 間
1	1	3/1		曾於市	1	0:30
2	1	3/5		鹿児島市	0	0:45
3	1	3/5		屋久島町	1	0:40
4	1	4/13		屋久島町	1	1:15
5	1	4/16		指宿市	1	0:10
6	1	5/5		屋久島町	1	0:40
7	1	5/11		屋久島町	1	0:30
8	1	5/20		鹿児島市	0	0:45
9	1	7/7		財部町	1	0:45
10	1	7/19		鹿児島市	1	2:20
11	1	7/20		西之表市	1	1:00
12	1	7/30		指宿市	1	0:10
13	1	8/15		屋久島町	1	0:50
14	1	8/24		屋久島町	1	1:15
15	1	8/26		指宿市	1	0:10
16	1	8/29		大隅肝属地区（出動途上キャンセル）	0	0:20
17	1	9/2		霧島市	1	0:25
18	1	9/12		鹿屋市	1	2:20
19	1	9/22		徳之島町	1	5:05
20	1	9/23		指宿市	1	0:15
21	1	10/4		鹿屋市	1	2:25
22	1	10/26		霧島市	1	0:30
23	1	10/30		霧島市	1	0:30
24	1	11/3		霧島市	1	0:35
25	1	11/14		指宿市	1	0:15
26	1	11/15		奄美市	1	3:05
27	1	11/21		南さつま市	1	0:20
27件 27回 27時間50分						

(3) 火災防ぎよ活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
				0件	

## (4) 救助活動状況

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	3/1		曾於市(山岳救助)	0:55
2	1	3/19		屋久島町(山岳救助)	0:55
3	1	4/16		指宿市(隊員投入)	0:35
4	1	4/16		指宿市(山岳救助)	0:25
5	1	5/5		屋久島町(山岳救助)	1:05
6	1	5/11		屋久島町(山岳救助)	1:05
7	1	7/7		財部町(山岳救助)	1:05
8	1	7/25		十島村 諏訪之瀬島(搜索活動)	2:30
9	1	7/26		十島村 諏訪之瀬島(搜索活動)	4:50
10	1	7/29		十島村 諏訪之瀬島(搜索・救助活動)	2:00
11	1	7/30		十島村 諏訪之瀬島(搜索・救助活動)	2:35
12	1	7/30		指宿市(山岳救助)	0:30
13	1	8/15		屋久島町(山岳救助)	1:30
14	1	8/26		指宿市(山岳救助)	0:30
15	1	9/2		霧島市(山岳救助)	0:50
16	1	9/23		指宿市(隊員投入)	0:25
17	1	9/23		指宿市(山岳救助)	0:20
18	1	10/26		霧島市(山岳救助)	0:40
19	1	10/30		霧島市(山岳救助)	1:10
20	1	11/3		霧島市(山岳救助)	1:00
21	1	11/14		指宿市(隊員投入)	0:25
22	1	11/14		指宿市(山岳救助)	0:20
23	1	11/21		南さつま市(山岳救助)	0:35
23件 23回 26時間15分					

(5) 広域航空消防防災応援活動

件数	回数	月 日	災害種別	発 生 場 所	時 間
1	1	3/8		宮崎県（火災防ぎよ活動）	0:50
2	1	7/11		宮崎県（転院搬送）	2:30
3	1	9/19		宮崎県（山岳救助）	1:25
4	1	9/19		宮崎県（傷病者搬送）	0:40
4 件		4 回		5 時間 25 分	

(6) 各種防災訓練等への参加等

件数	回数	月 日	訓練内容	訓練名及び実施場所	時 間
1	1	2/11	要員搬送・映像伝送	令和4年度鹿児島県原子力総合防災訓練	1:00
2	1	2/11	急患搬送・映像伝送	令和4年度鹿児島県原子力総合防災訓練	1:05
3	1	2/20	隊員投入・航空担架救助	大隅曾於地区消防組合との合同訓練	1:20
4	1	2/22	火災防ぎよ訓練	熊毛地区消防組合との合同訓練	1:25
5	1	2/25	レスキュー・スリングノーカット救助 エバッパク誘導あり救助	相互応援協定合同訓練（宮崎県）	2:05
6	1	4/30	機体展示、防災航空隊概要説明	エアーメモリアル鹿屋	0:40
7	1	5/12	情報収集・映像伝送	鹿屋市合同訓練	1:30
8	1	5/21	エバッパク誘導無し救助	東串良町総合防災訓練	1:05
9	1	7/25	航空担架救助	いちき串木野市消防本部との合同訓練	1:00
10	1	8/23	火山観察	離島防災訓練	0:50
11	1	8/27	サバイバースリングノーカット救助	日置市総合防災訓練	0:30
12	1	9/3	サバイバースリングノーカット救助	南さつま市総合防災訓練	0:50
13	1	9/8	サバイバースリングノーカット救助 航空担架・エバッパク誘導無し救助	初任教育合同訓練	1:10
14	1	9/13	隊員投入・エバッパク誘導無し救助	薩摩川内市消防局との合同訓練	1:15
15	1	9/15	エバッパク誘導無し救助	姶良市消防本部との合同訓練	1:00
16	1	9/17	サバイバースリングノーカット救助	枕崎市総合防災訓練	0:20
17	1	9/20	隊員投入・航空担架救助	出水市消防本部合同訓練	1:40
18	1	10/13	隊員投入・エバッパク誘導無し救助 ビタゴール救助・パーティカル担架救助	第28期救助科教育訓練	1:25
19	1	10/18	隊員投入・ドロップタンク送水要領 火災防ぎよ訓練	伊佐湧水消防組合との合同訓練	1:10
20	1	10/24	エバッパク誘導無し救助	令和5年度鹿児島県石油コンビナート等総合防災訓練	0:35
21	1	10/26	航空担架救助	鹿児島市消防局南消防署及び南さつま市消防本部との合同訓練	0:45
22	1	10/31	火災防ぎよ訓練	鹿児島市消防局西消防署及び姶良市消防本部との合同訓練	0:45
23	1	11/2	エバッパク誘導無し救助 ビタゴール救助・航空担架救助	鹿児島市消防局高度救助隊との合同訓練	1:30
24	1	11/7	隊員投入・航空担架救助	垂水市消防本部との合同訓練	1:10
25	1	11/8	パーティカル担架救助	鹿児島消防局中央署との合同訓練	1:10
26	1	11/11	急患搬送	第54回桜島火山爆発総合防災訓練	0:35
27	1	11/13	隊員投入	熊毛地区消防組合との合同訓練	1:25
28	1	11/14	隊員投入・パーティカル担架救助	南さつま市消防本部との合同訓練	1:10
29	1	11/16	隊員投入・航空担架救助	霧島市消防局との合同訓練	1:40
30	1	11/19	サバイバースリングノーカット救助	いちき串木野市総合防災訓練	0:50
31	1	11/25	部隊進出・情報収集	令和5年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練（北九州市）	2:50
31 件		31 回		35 時間 45 分	

余 白